

研究結果報告書

比較文化談論を通じた金玉均の歴史的な位相の再検討

所属：建国大学校

役職：学術研究教授

氏名：尹相鉉

本研究は文化コンテンツの中に現われた金玉均の評価が、時代的な背景とともにどのように屈折及び投影されているかを探ったものである。

まず、韓国での金玉均に対する評価は甲申政変の失敗後、現在にいたるまで否定的な人物として語られている。それは当時、日本の助けを得て起こったクーデター、そしてその後、朝鮮が日本の植民地とされた歴史のなかで、親日派というイメージが残ったからだと思われる。しかし、最近韓国では金玉均を素材とした小説やドラマが出版及び上映され、金玉均に対する歴史的な位相もまた見直そうとする動きが大きくなっている。

金玉均は日本へ亡命した約 10 年間、様々な日本人と交流した。その中で福沢諭吉との出会いは、彼の政治的・思想的に大きな影響を及ぼしたと言える。実は金玉均は 1881 年に日本へ行って、初めて福沢諭吉に出会った。その以降、金玉均は亡命中に福沢の世話になり、また彼から日本の有力者を紹介してもらった。特に福沢との出会いを通して朝鮮の近代化理論は勿論、金玉均が主張してきた三和主義にも福沢諭吉の教えが与えた影響は大きかった、と思える。金玉均と福沢との関係は、□金玉均の死□ (1944 年、南川博) にも現れている。つまり、二人の会話には民衆が持つべき<国家>や<国民>の概念を定立して近代的な方向性を提示しようとしたことがうかがえる

以上のように金玉均における韓国と日本での歴史的な評価が違っていたが、今まで否定的だった韓国は、金玉均を素材した色々な文化コンテンツの登場によって再評価され始めている。金玉均については韓国より日本にたくさんの資料や文献が残っているため、今後、彼の歴史的な評価を行うには日本にあるデータも十分に活用して再検討する必要があると思われる。また、今回の研究をきっかけとして日韓の近代史も一方的に政治的な立場からの見解によって判断するのみではなく韓国と日本に散在されている文化コンテスト分析を含めた、総合的な立場での見解が必要ではないかと思われる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

『「金玉均の死」に現れた歴史的な ナラティブ -1940年代金玉均に対する虚構的な叙事の限界と意義- 』、尹相鉉、『日本学』、2016年11月20日。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『李王の刺客』(青柳緑、潮出版社)を韓国語で翻訳し、2017年8月30日まで出版予定。

研究成果の公表について(予定も含む) (英文)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

『**Historical Narrative Appeared in *The Death of Kim Ok-gyun* - The Meaning and Limit of Fictional Narration on Kim Ok-gyun in the 1940's -**』, Youn, Sang-Hyun, 『Japanlogy』, 2016, 11, 20.

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『**A Assassin of the Lee-King**』 (Aoyagi-Midori, Usio-publishing company)
This is due to be published in August 2017.

以上